


森への回帰 ウミガメの森恵みの地域好循環による“にぎやかそ（にぎやかな過疎）”の加速

徳島県美波町（2022年度選定）

<h3>1. 地域の特徴と課題及び目標</h3>	<p>【地域の特徴】黒潮が生む温暖・多雨な気候であり、風光明媚で豊かな山海川に恵まれている。急速に過疎が進むなか、過疎地域でも持続可能な地域モデル（にぎやかそ）の取り組みを展開中。【今後の課題】SDGsの視点である地域経済循環の強化及びカーボンニュートラルの視点を組み込んだ地域モデル「にぎやかそ」のパワーアップが課題。【目標】地方の過疎地域における持続可能でレジリエントな地域モデル「にぎやかそ（にぎやかな過疎）」の確立を目指す。</p>	<h3>2. 関連するゴール</h3>	
<h3>3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①ウミガメの森を舞台に2つの強い産業（水産業と林業）の進化・再生と再エネ資源の発掘で地域経済循環の構造の改変する ②サテライトオフィス企業を中核とした産・官・学・町民全員の参加と共創プラットホームの進化を図る ③南海トラフ地震に備えた、エイジ&ジェンダーフレンドリーな木づかいのまちを推進する 		
<h3>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</h3> <p>○強い水産業と林業を美波町のシンボルである「ウミガメ」の森の恵みととらえ、環境と経済の共創による地域経済循環の自律的な好転を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護漁業のブランド化と海の森（藻場）の保全回復 ○山の森の核に樵木林業復興と林業廃材によるエネルギーの地産地消を新たに位置づける。 ・樵木の森の回復と林業廃材活用 ○知の森・産官学連携の共創プラットホーム（美波SDGsリビングラボ）に再編強化し、木づかいと共創のまちづくりにより「にぎやかそ」モデルを加速する。 ・美波SDGsリビングラボによる繋がれる仕組みと発信できる仕組みづくり。 ・木づかいの町として県・町産材を用いた施設の増加 	<h3>6. 取組成果</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○保護漁業のブランド化と海の森（藻場）の保全回復 <ul style="list-style-type: none"> ・藻場食害魚である未利用魚を使用した商品開発 ・地域資源を利用した藻場再生資材の開発 ・普及啓発を目的とした企業向け研修を実施 ・企業版ふるさと納税を活用した実証実験の実施 ○樵木林業復興 <ul style="list-style-type: none"> ・樵木製炭窯2基から3基に増設。 ・販路拡大に向けたECサイトの開設、ふるさと納税の返礼品として登録 ○共創プラットフォームの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・美波SDGsリビングラボを開設 ・SDGsパートナー制度を設立（企業認定） ・うみがめ博物館カレッタの改修に町産材を一部使用 		
<h3>5. 取組推進の工夫</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・美波町SDGs推進パートナー制度設立し、官民連携の強化し、また上記制度の審査委員に大学教授を入れることにより産官学の連携強化を図った。 	<h3>7. 今後の展開策</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○サステナブルツーリズムの拠点であるうみがめ博物館カレッタのリニューアルオープンが来年の夏に迫り、環境教育及び観光の拠点として様々なプログラムの提供をできるように関係者と連携するを図る。 ○パートナー企業と連携し各パートナーの強みを生かし、「ウミガメ」の森の復興を図る。 		
<h3>8. 他地域への展開状況（普及効果）</h3>	<p>テレビやマスコミ、町広報誌、町ホームページを通じて、SDGsの取組状況等の情報発信を行っている。現在美波SDGsリビングラボポータルサイトを開設し、すべての取組状況を確認することが可能となる。</p>		